

福祉的配慮が必要な人をケアする 避難システムづくり実施報告

平成28年1月

蘇我中学校地区コミュニティづくり懇談会

これまでの取組内容

- (1) 各町内自治会が中心になって、蘇我中学校地区にある10の避難所全てで、避難所運営委員会を組織し、地域の特性を反映した運営マニュアルを作成した。
- (2) H26.8月31日の防災訓練時に、「安否確認」「避難支援」「避難所の立ち上げ」「避難所の運営」の実訓練等を実施した。(一部できないもの有、また時期をずらして実施した所も有)
- (3) 避難所運営委員・町内自治会役員を対象に「災害時の避難所の実態等」について研修を行った。
- (4) 各避難所運営委員会の交流会・研修会も行った。

本年度事業目的

- 蘇我中学校地区にある10カ所全てに於いて、これまで手がつけられていない災害弱者等、福祉的配慮が必要な人をケアする避難システムづくりを行う。

福祉的配慮が必要な人・事柄

1. 怪我をして避難する人
2. 体育館等で皆と一緒にの避難生活が困難な高齢者
3. 体育館等で皆と一緒にの避難生活が困難な障害者
4. 乳幼児を抱えた母親
5. 授乳室・女性更衣室
6. 避難所生活そのものが困難な高齢者・障害者
7. その他体育館等で皆と一緒にの生活が困難な人

取組内容

- 1.各町内自治会で災害時要支援者等、福祉的配慮が必要な人・支援する人のリストを作成する。
- 2.避難支援訓練の実施(安否確認の訓練を兼ねる)
- 3.避難所での受付・受け入れ訓練の実施(健常者による模擬訓練を含む)
- 4.避難所における必要な福祉スペースの明確化と場所の確保、立ち上げ訓練の実施。
- 5.福祉避難所への避難誘導訓練の実施。
- 6.避難所運営マニュアルの見直し・改定。
- 7.新しい避難所運営委員・町内自治会役員の研修。

8月30日訓練実施項目とスケジュール

時刻	一般避難者・住民	避難所
8時30分		避難所運営委員は全員避難所へ集合 避難所立ち上げ訓練開始 避難所の安全確認(役員・総務班) 避難所場所割りの実施・表示、 特に要支援者 (施設班) 受付の開設準備(総務班・施設班) 備蓄品の確認・指定場所へ搬送(物資班) 非常食等の配布準備(食糧班) けが人・病人・要支援者対応準備、 重点課題 (救護班)
9時00分	地震発生、一時避難所へ全員集合 一時避難所未決定の町内自治会も組単位等で決めて、以下の対応を極力努力して実施する。	上記作業が終了したら、手が空いた人から地域に戻り、安否確認の支援を行う。各班の1/3は残り、マニュアルに決めた作業を行う。
9時10分	集まった人で手分けして安否確認実施 全戸チェック、見守りカードも活用する。	避難所運営委員会室・ 福祉避難室 ・ 授乳室 ・男女別更衣室等順次立ち上げ 表示 する。 仮設トイレの設置準備・実施。
9時30分	必要な救助行いながら一時避難所に再集合 安否確認終了したら一時避難所で待機	同上
9時40分	避難所に避難開始、組単位で全員一緒に避難所への避難支援訓練も兼ねる。 ふくし・防災ガイド&マップ活用危険個所把握	同上
9時50分		避難所開設宣言、受付開始 避難者カードに記載・受付・誘導訓練実施 けが人・病人・ 要支援者 の受け入れ訓練 福祉避難室・福祉避難所への誘導訓練 各班の連携訓練・総務班応援訓練 カードのまとめ方訓練 在宅避難者名簿の纏め・連絡体制確認
10時20分		非常食配布・炊き出し訓練実施 中央区役所から訓練用入手して実施。
10時30分		訓練終了、反省会開催 マニュアルの問題点明確化・修正 必要備蓄品の明確化・補充対応 今後のスケジュール決定

H27年度訓練実施報告

所 難 避	蘇我中学校	蘇我小学校	大森小地区 (大森小学校体育館)	宮崎小学校	大巖寺小学校
日時	2015年8月30日 (日) 8時30分 ~ 11時30分	2015年8月30日 (日) 8時30分 ~ 10時00分	2015年8月30日 (日) 9時00分 ~ 10時30分	2015年8月30日 (日) 8時30分 ~ 11時30分	2015年8月30日 (日) 7時30分 ~ 8時10分
参加者	合計 140人 (運営委員 20人、避難者 120人)	合計 25人 (運営委員 25人、避難者 0人) (男性 22人、女性 3人) (大人 25人、子ども 0人)	合計 46人 (運営委員 44人、避難者 2人)	合計 68人 (運営委員 61人、避難者 7人) (男性 46人、女性 22人) (大人 64人、子ども 4人) (要支援者 0人)	合計 14人 (運営委員 1人、避難者 0人) (男性 10人、女性 4人) (要支援者 0人)
第1ステップ	避難所状況確認訓練	三者で立ち上げを行い、地域防災無線による情報伝達訓練を実施した。	避難所が耐震工事で使用できないため、外見を全員で点検した。食糧班・物資班と市職員で、備蓄物資・資器材の点検、不足分について、市担当者に連絡を依頼した。	①宮崎小校長・教頭、市職員(4人)、運営委員(委員長・副委員長)で避難所立ち上げ ②本日の訓練の全般について打ち合わせ ③備蓄品・資機材等の確認	市職員2人・施設管理者4人 基準がわからない
第2ステップ	居住スペース設置 物資・資材確認訓練 炊き出し訓練、救護訓練	なし	他の班は、班長を中心に打ち合わせを行った。	①今回は、各町内自治会の運営委員(過去3年間の町内自治会役員)・民生委員・青少年育成委員・スポーツ推進委員等を対象に実施。事前通知。 ②救急救命(AED)操作訓練、AED使用の有効性講習(業者)	各町会で確認
第3ステップ	受付 避難者カード集計	防災備品の確認と井戸水装置の試運転を行った。		①避難者・負傷者カードの作成・登録 ②体育館内の町内自治会毎の居住空間の割り振り ③車椅子で体育館に問題なく入れるか	避難は、各町会長により命令??より行動をする地域のことを考えて
今年度の課題	マニュアル整備 資材整備	運営マニュアルの改定作業	現在のマニュアルを検討し、福祉的配慮が必要な人(各町会で人員を確認する)のケアシステム作りを行う。	①避難所までの道のりについて、具体的にどのよう行動するのか? ②避難行動要支援者名簿を、地区担当民生委員と相談しておく ③町内自治会単位などで安否確認後、組および班単位で協力して避難所へ避難する	各町会にてなるべく家で
今後の予定	HUGによる研修会	11~12月に、運営マニュアルの改定打ち合わせと防災備品の再確認を行う。	10月に避難所運営委員会を開催し、上記について協議する。	宮崎小避難所対象町内自治会会長と相談しながら内容等を決め、次年度につなげる。 内容・規模等を考慮し、市の指導のもと毎年訓練を実施していく。	
その他		当日は、体育館が工事中で内部に入れないため、訓練内容を縮小した。		市からの、避難所へ毎年配布される物品の量が多くなり、学校管理内に保管が困難となったので、今後管理保管について対策が必要。	

H27年度訓練実施報告

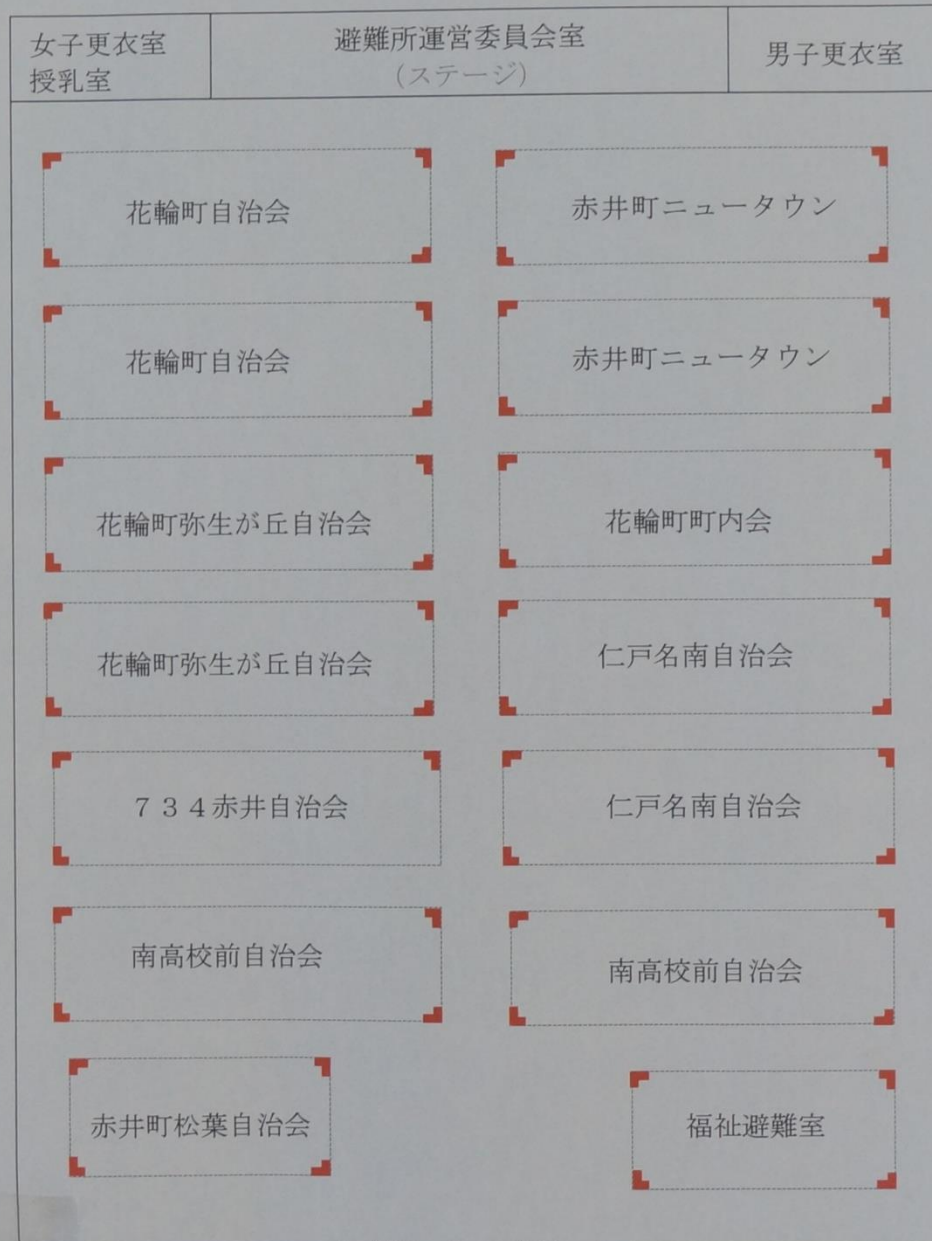
避難所	千葉工業高等学校	千葉南高校避難所運営委員会	宮崎公民館	蘇我勤労市民プラザ避難所	南部青少年センター
日時	2015年8月30日(日) 8時30分～10時20分	2015年8月30日(日) 8時30分～10時30分 11時(反省会)	2015年8月30日(日) 9時00分～11時40分	2015年8月30日(日) 8時30分～10時30分	2015年8月30日(日) 8時00分～10時00分
参加者	合計38人 (運営委員38人、避難者人) (男性31人、女性7人)	合計302人 他に南校2名・市職員4名・中央区1名	合計20人 (運営委員9人、避難者11人) (男性17人、女性3人) (要支援者:模擬3人) 模擬避難者が連れてきたという想定	合計19人 (運営委員19人、避難者0人) (男性12人、女性7人) (大人19人、子ども人) (要支援者0人)	合計約80人 (男性60人、女性20人) (要支援者2人)
第1ステップ	体育館は部活対外試合中のため使用できず、また、運営委員の大半が役員交代のため、施設・機器・物資の点検、確認項目を実施した。	避難所運営委員で自主的に実施。市職員は本部との連絡業務及び受付での要支援者の選別(特に福祉避難所への搬送者の決定業務)とした。施設管理者は直接タッチせず、オブザーバー兼相談者として立ち会ってもらった。	運営委員への連絡、施設の外部安全点検、開錠、簡易照明の設置、内部安全点検、市への施設状況報告、受け付けの用意、市への避難所開設報告などの訓練実施	*外回りの安全点検 *備蓄品確認 *資機材の点検・確認 *体育館にて、居住スペースの想定と測定 *市職員による情報伝達訓練 *避難者・負傷者カードの記載訓練	開館のため、テントを設営したのち、本部として小塚台公園を使用
第2ステップ		ごみステーション等の一次避難所に集まり、手分けして安否確認実施(事前に不参加世帯把握済みの所が多く、時間をかけない所が多かった) 避難支援は安否確認後、一緒に避難所に避難して実施した。	避難所では実施せず。なお、南町共栄会ではブロックに分けて、26年11月・27年7月に訓練実施安否確認までを行った。それぞれ80世帯・34世帯が参加。	実施せず	青少年センター玄関前を受付として使用、各町内自治会にて安否支援活動を行う。 車椅子の参加者には、支援者同行。
第3ステップ		受け付けから始まる避難所運営訓練、ほぼマニュアル通りに実施できた。 本年は避難者カードを工夫したので、受け付けもかなりスムーズにできた。本年より参加町内自治会が一つ増えたが、家族連れで比較的多くの人に参加してもらえた。	模擬避難者11人のけが人・病人の有無確認、簡易避難者カードへの記載、避難者の収容訓練を実施。	実施せず	受け付けにて避難住民の名簿作成のあと、各避難エリアをグループごとに確認
今年度の課題		各町内自治会で、健常者に「ケガ人」「病人」「要支援者」等のプレートを付けた人を2～3人選定し、受け付けの対応訓練を実施した。更に、車いす使用の運営委員に福祉避難所搬送者になってもらい、搬送・福祉避難所での受け入れ訓練も実施した。避難所では福祉避難室・男女更衣室・授乳室・隔離室等を設けて対応した。	要支援者用の備蓄品の準備。	マニュアルの見直しは行うが、訓練実施の予定なし	2～3ヵ月ごとに委員会を開き、マニュアル・避難所運営について検討する。
今後の予定	新任役員が多いため、時期をみて、HUG訓練を予定。 追記:12/17、全体訓練(工業高校主催)実施予定。	当日の終了後の反省会(運営委員全員対象)に続いて、9/7に役員会を開催。マニュアルの見直し修正方法を決めた(本年度中に完成予定)、また、来年に向けての対応方法についても協議し、今後の体制づくりも行う。	南町共栄会では11月に安否確認までの避難訓練の3回目を実施予定。	避難所改装後、早めに第2ステップまでの訓練を行いたい。	
その他		来年以降の訓練も定期的に行い、内容の充実が必要であるが、そのためにはお金もかかり、その体制づくりも必要。防災訓練実施補助金の活用も考えていきたい。			







体育館レイアウト





秋歌
大正十三年九月
理小一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

昭和十三年九月



本

本

本



訓練の実施状況(千葉工業高校)

松本 稜 (八街中央中出身)

工業化学科 中西光樹 (松ヶ丘中出身)

全国大会出場



訓練の実施状況(千葉工業高校)



避難訓練の実施状況(大森小)体育館耐震工事中



訓練の実施状況(蘇我小)備品倉庫の点検



訓練の実施状況(蘇我中)受付訓練



訓練の実施状況(宮崎小)車いすでの避難



訓練の実施状況(宮崎小)車いす通路幅の確認



訓練の実施状況(宮崎小)簡易トイレの組み立て訓練



得られた(つつある)成果

1. 8/30の訓練では、会場の都合等で十分に実施できなかった所もあったが、(後日実施した所もあり)計画した成果がほぼ得られた。但し、避難所による差も目立ちだしたため、この対応が必要で、今後の課題として残った。
2. 福祉的配慮を必要とする人を含めた安否確認・避難支援・避難所の立ち上げ・運営がかなりのレベル迄実施ができ、地域の安心・安全体制の内容の充実が図られた。
3. 各避難所における避難所運営マニュアルが地域特性に配慮するとともに、福祉的配慮が必要な人をケアするものになった。(全避難所で完成する予定)
4. 継続した研修により、災害に強い人づくりがかなり進み、地域の防災力が更に高まった。特に今回の研修では障害者をひとくりにせず、個別の対応が必要な事を学ぶ予定。